

交付運用報告書 2023年3月期（2022年4月1日～2023年3月31日）

i シェアーズ バイオテクノロジー ETF
iShares Biotechnology ETF

（旧 i シェアーズ NASDAQ バイオテクノロジー ETF
iShares Nasdaq Biotechnology ETF）

米ドル建／オープンエンド契約型外国投資信託
米国デラウェア籍法定トラスト

受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

さて、i シェアーズ バイオテクノロジー ETF（以下「ファンド」といいます。）の受益証券は、このたび、2023年3月期の決算を行いました。ファンドの投資目的は、NASDAQに上場されているバイオテクノロジーおよび医薬品関連株式により構成される指数に連動する運用成果を追求することです。当期につきましてもそれに沿った運用を行いました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。
今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

2023年3月末日

1口当たり純資産価格（基準価格）	129.24米ドル
純資産総額	8,025,706,683米ドル
2023年3月期（2022年4月1日～2023年3月31日）	
トータルリターン	-0.46%
1口当たり分配金額	0.355078米ドル

（注）1口当たり分配金額は、税引前の分配金額を記載しています。以下同じです。

ファンドの運用報告書（全体版）は受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、取次証券会社までお問い合わせください。

<その他記載事項>

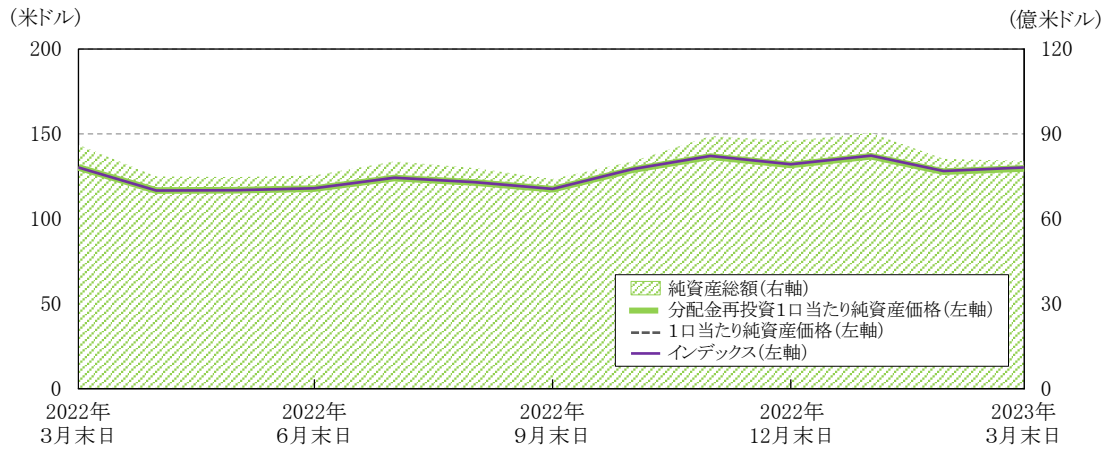
交付運用報告書および運用報告書（全体版）はブラックロック・ジャパン株式会社のウェブサイト（<https://www.blackrock.com/jp/>）の投資信託情報ページにて電磁的方法により提供しております。

トラスト：

i シェアーズ・トラスト

《運用経過》

当期の1口当たり純資産価格等の推移について



2022年3月末日現在の1口当たり純資産価格：130.21米ドル

2023年3月末日現在の1口当たり純資産価格：129.24米ドル

(1口当たり分配金額：0.355078米ドル)

トータルリターン：-0.46%

(注1) 上記のグラフは、Aladdin®システムから抽出したデータに基づき作成しています。

(注2) 分配金再投資1口当たり純資産価格は、税引前の分配金を分配時にファンドへ再投資したとみなして算出したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。以下同じです。

(注3) ファンドのインデックスは、2021年6月21日より、NASDAQ バイオテクノロジー・インデックスからICEバイオテクノロジー指数に変更されました。上記のグラフのインデックスのパフォーマンスは、2021年6月20日までは、NASDAQ バイオテクノロジー・インデックスを反映しており、2021年6月21日以降は、ICEバイオテクノロジー指数を反映しています。本書において「インデックス」とは、2021年6月20日までの期間につきNASDAQ バイオテクノロジー・インデックスを、2021年6月21日以降の期間につきICEバイオテクノロジー指数を指します。

(注4) インデックスおよび分配金再投資1口当たり純資産価格は、2022年3月期末の1口当たり純資産価格を起点として計算しています。

(注5) 分配金再投資1口当たり純資産価格は、各投資者の購入状況などにより課税条件が異なるため、分配金に対する税金を考慮していません。そのため、最終的な税引後の結果を示すものではありません。

1 口当たり純資産価格の主な変動要因、投資環境およびポートフォリオについて

米国市場概観

2023年3月31日に終了した年度（以下「当年度」）において、米国株式市場パフォーマンスの一般的な指標であるラッセル3000株価指数がマイナス8.58%のリターンとなった中、米国株式は下落しました。インフレ率の上昇と金融政策の急速な引き締めが成長を鈍化させ、株価の重しとなりました。金利上昇は債券利回りを押し上げ、企業や消費者の借入コストを上昇させました。経済全体が回復し、インフレ率が低下したことから、当年度下半期には株価は回復に転じました。2023年3月、銀行2行が突然破綻し、資産額で米国史上2番目と3番目に大きな銀行破綻となりました。このため、投資家の間では、急速な金利上昇に直面した金融システムの回復力に対する懸念が高まりました。しかし、政府機関の迅速な対応により、破綻した銀行の資産売却と流動性供給が行われ、株価は回復しました。

インフレは経済見通しを大きく左右する要因でした。当年度に入り、インフレを示す指標として広く普及している消費者物価指数は数十年ぶりの高水準となりました。堅調な個人消費と労働市場の逼迫に加え、アジアにおけるサプライチェーンの混乱が続き、物価を上昇させました。しかし、インフレ率は当年度が経過するにつれて低下し始め、2022年7月から9ヵ月連続で減速しています。それにもかかわらず、依然としてインフレ率は歴史的な水準で高止まりしており、物価上昇は消費者と企業の双方にマイナス影響を及ぼしました。

米国経済は、2022年上半期の落ち込みから回復し、2022年第3四半期と第4四半期に緩やかな成長を記録しました。多くの消費財およびサービスの価格が上昇したにもかかわらず、消費者は引き続き支出を増やし、経済を牽引しました。失業率が依然として非常に低く、一時は1969年以来の最低水準まで低下したこともあり、堅調な労働市場が消費を支えました。さらに、労働参加率（生産年齢人口に占める雇用者の割合）は上昇し、より多くの人々が労働力として取り込まれていることを示しています。労働供給が逼迫する中、賃金は大幅に上昇し、特に低賃金層での上昇幅が大きくなりました。

インフレを抑制するため、米国連邦準備制度（以下、「Fed」）は当年度中に8回の短期金利引き上げを行い、金融政策を急速に引き締めました。インフレが沈静化し始めて引き上げ幅を縮小する前にFedは引き上げ幅を2回拡大したため、引き締めのペースは加速しました。Fedはまた、コロナウイルスのパンデミックの初期段階で市場を安定させるために蓄えていた米国債を減らし、バランスシートの縮小に着手しました。Fedは、長期的なインフレ目標を達成するためにはさらなる引き締めが必要であることを示唆しましたが、当年度の終わり頃には、さらなる利上げの可能性についてより慎重な姿勢を示しました。

景気の逆風にもかかわらず、企業収益は堅調に推移し、多くの企業は人件費や投入コストの上昇にもかかわらず、利益率を維持するために十分な価格引き上げを行うことができました。しかし、2022年第4四半期は全体的に利益が減少し、イールドカーブ（満期が異なる米国国債の金利をグラフ化したもの）が反転し、これは借入コスト上昇が経済に与える影響を市場が懸念していることを示しています。さらに、個人貯蓄の減少や家計債務の増加は、経済成長の原動力となる個人消費の持続可能性に疑問を投げかけました。

1. 運用の経過

iシェアーズ バイオテクノロジー ETF

2023年3月31日現在のファンド概要

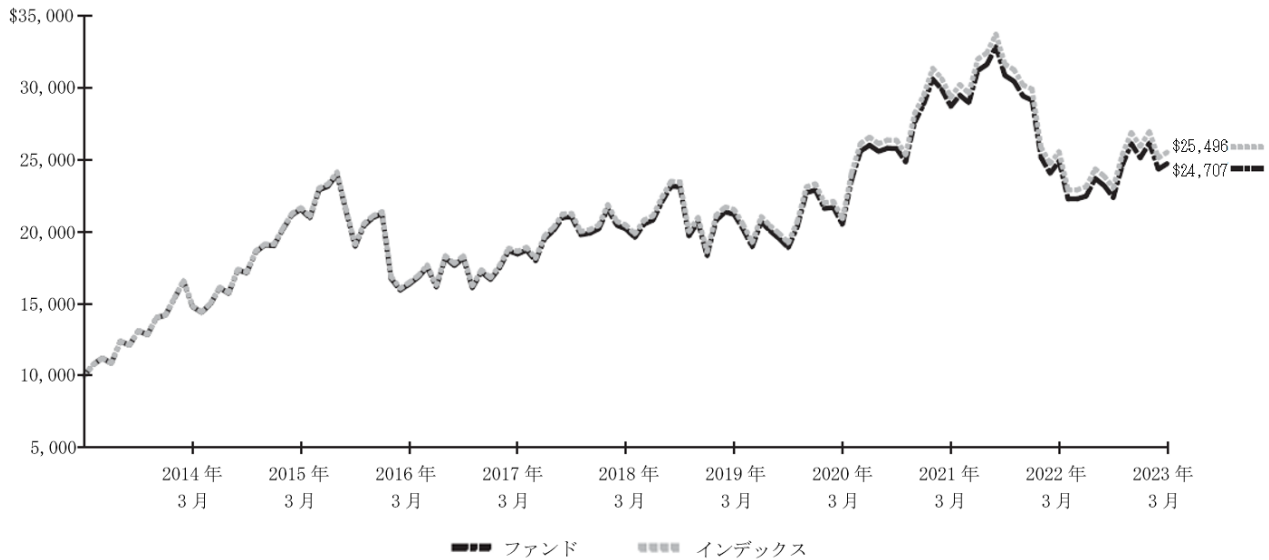
投資目的

iシェアーズ バイオテクノロジー ETF（以下「ファンド」）は、ICEバイオテクノロジー指数（以下「インデックス」）に代表される、バイオテクノロジー・セクターの米国上場銘柄で構成されるインデックスと同等の投資成果をあげることを目指しています。ファンドは、全体としてインデックスと同様の投資特性を有する、インデックスに含まれる代表的な構成銘柄を組入れています。代表的な構成銘柄の組入れにより、ファンドはインデックスに含まれる銘柄のすべてを保有する場合もあれば、しない場合もあります。

パフォーマンス

	年間平均トータルリターン			累積トータルリターン		
	1年	5年	10年	1年	5年	10年
ファンドのNAV	(0.46) %	4.15%	9.47%	(0.46) %	22.54%	147.13%
ファンドの市場	(0.58) %	4.13%	9.47%	(0.58) %	22.44%	147.07%
インデックス	(0.09) %	4.51%	9.81%	(0.09) %	24.71%	154.96%

10,000 米ドル投資の純資産価額の推移



2021年6月20日までのインデックスのパフォーマンスは、NASDAQ バイオテクノロジー指数のパフォーマンスを反映しています。2021年6月21日以降のインデックスのパフォーマンスは、ICEバイオテクノロジー指数を反映しています。

過去のパフォーマンスは、将来のパフォーマンスを示唆するものではありません。運用パフォーマンスの結果は、ファンドの分配時あるいはファンド受益証券の償還時または売却時に受益証券保有者が支払う可能性のある税金の控除を反映していません。

費用例

実績値			5%の仮説リターンに基づく仮定値			
口座の 期首価額	口座の 期末価額	当期間の 費用	口座の 期首価額	口座の 期末価額	当期間の 費用	費用比率 (年率)
2022年10月1日	2023年3月31日	支払額 ^(a)	2022年10月1日	2023年3月31日	支払額 ^(a)	
1,000.00米ドル	1,105.30米ドル	2.36米ドル	1,000.00米ドル	1,022.69米ドル	2.27米ドル	0.45%

^(a) 費用は、当期間中の口座の平均価額に、年率換算された費用比率および182/365（表示されている半年の期間を反映）を乗じたものに相当します。売買委託手数料および金融仲介業者へのその他の手数料など、上記の表や例には反映されないその他の手数料が支払われる場合があります。

ポートフォリオ管理の説明

バイオテクノロジー関連銘柄は当年度において横ばいで推移しました。多くのバイオテクノロジー企業が新薬の研究資金を調達するために多額の負債を抱えていることから、金利の上昇により資金調達コストが増加しました。金利上昇とインフレ圧力の高まりは、企業の営業費用も増加させ、特に商品化までの開発期間がより長い医薬品の研究を行っている企業にとっては、資本投資を呼び込む能力を弱めることになりました。

当年度において平均してインデックスの78%を占めるバイオテクノロジー・セクターの銘柄が、インデックスのパフォーマンスに最も貢献しました。医薬品販売が好調であった企業と臨床試験の結果が良好であった企業が数社あったため、全体のインデックスを押し上げました。バイオテクノロジー関連銘柄は、高コストの長期にわたる臨床試験の結果が良好であれば大きな販売機会を得られる可能性がある一方、結果が悪ければ大きな損失となるため、しばしば不安定になります。あるバイオテクノロジー企業の株価は、HIV治療薬やがん治療薬の売上が好調で、COVID-19抗ウイルス薬による収益も好調であったことから急上昇しました。別のバイオテクノロジー企業では、嚢胞性線維症治療薬の売上が好調で株価が上昇し、また湿疹治療薬の売上也好調であったことから株価がさらに上昇しました。

一方で、当年度において平均してインデックスの18%を占めるライフサイエンスツール・サービス関連銘柄が、インデックスを引き下げました。このセクターのある企業の株価は、競合他社の特許の意図的な侵害があったと連邦陪審が判断し、333百万米ドルの支払いを命じられたことで急落しました。また、別の企業でも、コロナウイルス関連サービスの減少により売上の伸びが鈍化するとの見通しを示した後に株価が急落しました。

平均してインデックスに占める割合が小さい医療提供・サービス業界や医薬品業界の銘柄もパフォーマンスを引き下げました。

ポートフォリオ情報

業界別内訳

業界	総投資比率 ^(a)
バイオテクノロジー	78.7%
ライフサイエンスツール・サービス	17.9
医薬品	2.5
その他（各1%未満）	0.9

組入上位10銘柄

証券	総投資比率 ^(a)
Amgen, Inc.	8.2%
Gilead Sciences, Inc.	8.1
Regeneron Pharmaceuticals, Inc.	8.0
Vertex Pharmaceuticals, Inc.	7.7
Moderna, Inc.	4.9
Biogen, Inc.	3.8
Seagen, Inc.	3.5
IQVIA Holdings, Inc.	3.5
Illumina, Inc.	3.5
Mettler-Toledo International, Inc.	3.2

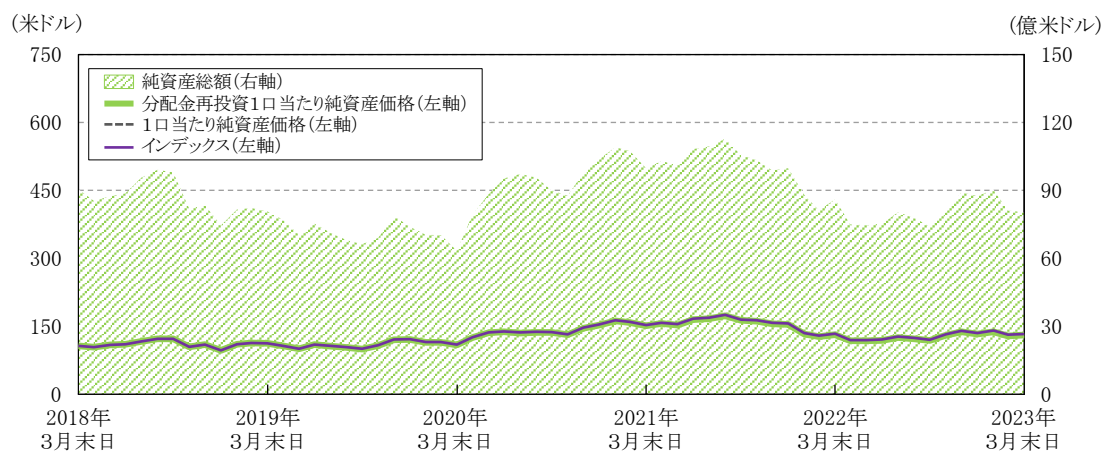
^(a) マネー・マーケット・ファンドを除く。

費用の明細

項目	項目の概要		
投資顧問報酬	投資顧問報酬	平均日次純資産総額 ^(注)	ファンドに提供する投資顧問サービスの対価
	0.4800%	1,210億米ドルまで	
	0.4560%	1,210億米ドル超、 1,810億米ドル以下	
	0.4332%	1,810億米ドル超、 2,310億米ドル以下	
	0.4116%	2,310億米ドル超、 2,810億米ドル以下	
	0.3910%	2,810億米ドル超	
その他の費用	0%		該当事項はありません。

(注) 平均日次純資産総額とは、ファンドの属する一定のファンドグループの純資産総額の日々平均残高の合計額を指し、投資顧問会社は上記の料率に従って計算される投資顧問報酬の合計額のうち、ファンドに係る割当額を受領します。

最近5年間の1口当たり純資産価格等の推移について



	2018年 3月末日	2019年 3月末日	2020年 3月末日	2021年 3月末日	2022年 3月末日	2023年 3月末日
1口当たり純資産価格 (米ドル)	106.73	111.78	107.98	150.36	130.21	129.24
1口当たり分配金額 (米ドル)	—	0.188434	0.264399	0.386284	0.306489	0.355078
ファンドのトータル リターン (%)	—	4.92	−3.17	39.63	−13.22	−0.46
インデックスのトータル リターン (%)	—	5.24	−2.84	40.13	−12.88	−0.09
純資産総額 (千米ドル)	9,040,121	8,026,142	6,343,965	9,848,582	8,606,878	8,025,707

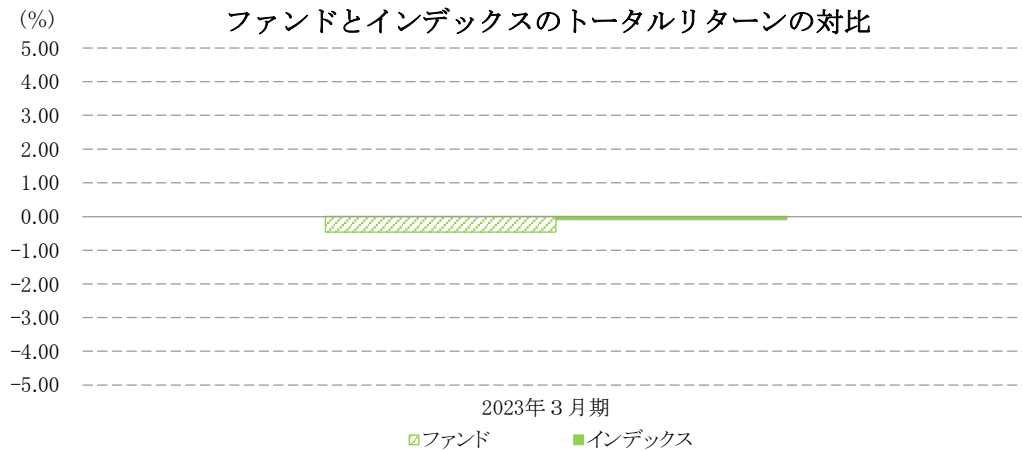
(注1) 上記のグラフは、Aladdin®システムから抽出したデータに基づき作成しています。

(注2) インデックスおよび分配金再投資1口当たり純資産価格は、2018年3月期末の1口当たり純資産価格を起点として計算しています。

(注3) ファンドは、2017年11月30日の取引終了後に1対3の受益権分割を行っています。上記の表では、1口当たり純資産価格は、当該受益権分割を反映した数値を掲載しています。

(注4) 上記のグラフのインデックスは、2021年6月20日までは、NASDAQ バイオテクノロジー・インデックスのパフォーマンスを反映しており、2021年6月21日以降は、ICEバイオテクノロジー指数のパフォーマンスを反映しています。

ベンチマークとの差異について



分配金について

当期（2022年4月1日～2023年3月31日）の1口当たり分配金（税引前）はそれぞれ下表のとおりです。
 なお、下表の「分配金を含む1口当たり純資産価格の変動額」は、当該分配落日における1口当たり分配金額と比較する目的で、便宜上算出しているものです。

（金額：米ドル）

分配落日	1口当たり純資産価格	1口当たり分配金額 (対1口当たり純資産価格比率 ^(注1))	分配金を含む1口当たり純資産価格の変動額 ^(注2)
2022年6月9日	113.89	0.030532 (0.03%)	-16.11
2022年9月26日	113.43	0.158586 (0.14%)	-0.30
2022年12月13日	136.08	0.101396 (0.07%)	22.76
2023年3月23日	124.52	0.064564 (0.05%)	-11.49

（注1）「対1口当たり純資産価格比率」とは、以下の計算式により算出される値であり、ファンドの収益率とは異なる点にご留意ください。

対1口当たり純資産価格比率（%）＝ $100 \times a / b$

a＝当該分配落日における1口当たり分配金額

b＝当該分配落日における1口当たり純資産価格＋当該分配落日における1口当たり分配金額

（注2）「分配金を含む1口当たり純資産価格の変動額」とは、以下の計算式により算出されます。

分配金を含む1口当たり純資産価格の変動額＝ $b - c$

b＝当該分配落日における1口当たり純資産価格＋当該分配落日における1口当たり分配金額

c＝当該分配落日の直前の分配落日における1口当たり純資産価格

（注3）2022年6月9日の直前の分配落日（2022年3月24日）における1口当たり純資産価格は、130.03米ドルでした。

《今後の運用方針》

引き続き、インデックスのパフォーマンスと密接に連動した投資成果を提供することを目指し、ファンドの運用を行う予定です。

《お知らせ》

該当事項はありません。

《ファンドの概要》

ファンド形態	米ドル建／オープンエンド契約型外国投資信託 米国デラウェア籍法定トラスト
信託期間	無期限
運用方針	ファンドの投資目的は、バイオテクノロジーセクター内の米国上場株式により構成される指数に連動する運用成果を追求することです。
主要投資対象	ファンドは通常、その資産の 80 パーセント以上をインデックスを構成する有価証券およびこれと実質的に同様の経済的特性を有する有価証券（例えば、これを表章する預託証券）に、またその資産の 20 パーセントまでを特定の先物、オプションおよびスワップ契約、現金および現金等価物に投資します。
運用方法	ファンドは、バイオテクノロジー・サブ・インダストリー・グループ内の ICE Uniform Sector Classification スキーマに従い分類され、最低時価総額および市場流動性要件を含む、インデックス・プロバイダーにより決定されるその他の適格基準を満たす、米国株式取引所に上場される企業の運用実績を測定するベンチマークに連動する運用成果を追求します。 BlackRock Fund Advisors は、ファンドの投資目的を達成するために、インデクシング・アプローチを使用します。 BlackRock Fund Advisors は、ファンドの運用につき代表サンプリング戦略を使用します。代表サンプリングとは、全体としてインデックスの代表サンプルと類似する投資プロファイルを有する証券の代表サンプルに投資する指数戦略をいいます。
投資制限	1. 投資を集中させること（すなわち、全資産の 25 パーセント以上を特定の産業または産業グループの株式に投資すること。）。但し、ファンドは、インデックスが特定の産業または産業グループに株式を集中させる程度とほぼ同程度に投資を集中させます。かかる制限の目的上、米国政府（その支分機関および系列機関を含みます。）の証券、米国政府証券の担保付き買戻契約および連邦または地方政府もしくはその政府当局の証券は、いかなる産業の構成員から発行されたものとして解釈されません。 2. 借入を行うこと。但し、(i) ファンドは、これを行わなければ、時機を失した証券の処分を要する買戻請求に対応するために、臨時または緊急目的（レバレッジ目的を除きます。）で銀行から借入を行うことができ、(ii) ファンドは、その投資方針と合致している限り、買戻契約、逆買戻契約、先送り取引、およびこれらと類似する他の投資戦略および技術を履行することができます。(i) および(ii) の取引を行う場合に限り、当該取引からファンドは総資産（借入額を含みます。）の 33⅓パーセント以上を取得してはならないという制限が課されます。当該金額を超過する借入は、適用法に基づき縮減されます。 3. 優先的受益証券を発行すること。但し、米国 1940 年投資会社法（改正済）で認められているか、または、管轄権を有する規制当局が、随時、解釈、修正その他により許可する場合を除きます。

	4. 貸付を行うこと。但し、米国 1940 年投資会社法（改正済）で認められているか、または、管轄権を有する規制当局が、随時、解釈、修正その他により許可する場合を除きます。 5. 不動産、不動産抵当、商品、商品契約を売買すること。但し、かかる制限はファンドが先物契約および先物契約のオプションを取引すること（ファンドの投資目的および投資方針と合致している限り、為替オプションを含みます。）を禁止するものではありません。 6. 他の者が発行した証券の引受業務に携わること。但し、ポートフォリオ証券の処分により、ファンドが、厳密には、米国 1933 年証券法における引受人とみなされる場合を除きます。
分配方針	純投資収益からの分配金（もしあれば）は、最低でも毎年宣言され、ファンドから支払われます。証券の実現純収益（もしあれば）は、通常年に一回宣言され、支払われますが、トラストは、特定のファンドに対してより頻繁に分配を行うことができます。ファンドの登録投資会社としての地位を維持するため、または、分配されない収益に所得税もしくは消費税が賦課されることを回避するために必要であるとファンドがその合理的裁量により決定した場合、臨時分配金を宣言する権利を有します。

《ファンドデータ》

組入資産の内容（2023年3月期末現在）

組入上位資産

（注）組入上位銘柄および組入銘柄数は、ファンドのアニユアル・レポートその他の現地開示書類において開示が行われていないため、記載することができません。組入銘柄の詳細は、運用報告書（全体版）の「Ⅳ．投資有価証券の主な銘柄」を参照ください。

組入資産の資産別配分、国別配分および通貨別配分

（注1）ファンドの組入資産の資産別配分、国別配分および通貨別配分は、ファンドのアニユアル・レポートその他の現地開示書類において開示が行われていないため、記載することができません。

（注2）ファンドの組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載されています。

純資産等

2023年3月期末	
1口当たり純資産価格	129.24米ドル
純資産総額	8,025,706,683米ドル
発行済口数	62,100,000口

2023年3月期		
販売口数	買戻口数	発行済口数
47,300,000	51,300,000	62,100,000

本報告書に記載の「1口当たり純資産価格の主な変動要因、投資環境およびポートフォリオについて」は、ファンドのアニユアル・レポートの該当部分の翻訳であり、本報告書と原文（英文）との間に相違がある場合には、原文（英文）の内容に従うことになります。なお、原文（英文）の記載のうち、ファンドに関係しない部分を省略する場合があります。